

入選

ぼくが思うこと

千葉県 萩原小学校

3年 飯高凌介

「あれっ！おさいふがない。」

家に着くと、ぼくの大事なおさいふがないことに気づきました。どこでなくしてしまったのだろう。もしかしたら、どこかで落としてしまったのかな。そんな心配で、頭がいっぱいになりました。ドキドキしながら、「ぼくのおさいふ、知らない？」と、お母さんに聞きました。すると、お母さんもびっくりした表じょうで、「えっ！知らないよ。」と言いました。

おさいふはどこに行ってしまったのでしょうか。ますます心配になりました。お母さんはすぐに、さっきまで遊びに行っていた、おばあちゃんの家電話をかけてくれました。おさいふをなくしたことを電話に出たおばあちゃんに伝えると、

「ああ、ちょっと待って、あったあった。だいじょうぶ、あずかっておくね。」

その言葉を聞いて、（よかったあ）と体の力がぬけるほどホッとしました。ぼくは、こんなドキドキする心配事はもうしたくないと思い、次はなくさないように気をつけることにしました。

そんなある日のことです。家族で買い物に出かけたとき、お父さんの洋服を買いにお店に入りました。お父さんが洋服をえらんで、お会計の順番を待っていると、あわてた様子の男の人が、お店の中で何かを探しているようでした。ぼくは、お父さんに、

「あの男の人、何かこまっているみたいだよ。」

と言いました。ぼくは、自分がおさいふをなくしたときのことを思い出しました。あのドキドキして、心配で頭がいっぱいになったときのことです。お会計の順番が進んでいき、ぼくはレジの横におかれていたスマホを見つけました。

「もしかして、あのスマホを探しているんじゃないかな。」とお父さんに言って、ぼくはゆう気を出して、男の人に声をかけてみました。

「すみません。もしかして、このスマホを探していますか。」

その男の人はスマホを見ると、ホッとした表じょうで、「ありがとう。これを探していたんだよ。」と、ぼくにおれいをしてくれました。お父さんが、「困っている人のやくに立てて良かったね。」そう言ってくれて、ぼくはなんだかとてもうれしい気持ちになりました。

世の中には、いっぱいの「困った」があると思います。ぼくは、全部の「困った」をかいつすことはまだまだできないけれど、困っている人の気持ちを感じて、小さなことでも親切に行動できるように、がんばりたいと思います。

そして、もっともっと、小さな親切であふれる世界になってほしいと思います。